生徒指導部通心（信）第7号（２０２６．５．２７）

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「窮達(きゅうたつ)は命なり。吉凶は人に由(よ)る」～

これは、**困窮したり栄達に恵まれたりするのは運命であるが、それを吉とするか凶とするかは・・・その人次第**ということです。

困窮の中にいてもそのことによって人生を発展さえる人がいるし、栄達の中にいてもそのことで運命を衰退さえてしまう人もいるからである。そして、吉凶を分ける基になるものに、その人が感謝があるかどうかが大きく影響しているのではないかと思うのである。(『致知』特集より)では・・・どうぞ。

大橋秀行氏（大橋ボクシングジム会長）は『１日１話読めば心が熱くなる365人の人間学の教科書』致知出版社）でこう語っている。

大橋氏のプロでの成績は 24 歳にして 19 勝5敗。高校二年生でインターハイで優勝したが、三年生では連覇できなかった。大学の時もオリンピック最終選考でいつも勝っている相手に負けて出場できなかった。

プロになった時も逸材と言われながら大事な試合で負けてしまう。

その理由を分析してみたら分かったことがある。

それは･･･**『負ける時はいつも監督とかジムの会長に対して不満を持っていた。』**ということである。

「勝ち続けていくとどうしても『うぬぼれ』が出てきてしまって**『自分の力で強くなった』と勘違いしてしまう。**だから『なんだよ』とか『指導が悪いんだよ』と周囲に不平不満や言い訳が出てきたところで負けることに気づいたんです。

大橋会長と井上尚弥

負けるのは周囲が悪いんじゃなくて自分が悪いんだと考えを改め、周りに対して感謝をもって接すると、やっぱり自分が変わっていきました。」

自らの体験を通して得た尊い教訓である。

文芸評論家の小林秀雄氏の言葉がある。

「困難な事態を試練として受け取るか災難として受け取るかが、個人の生活でも一生の分かれ道となる」

困難や苦難を災難と受け取れば、不平不満、愚痴しか出てこない。果ては自暴自棄に陥る。そういう人の人生は充実発展するわけがない。

逆に、この困難は自分という人間を鍛え成長させるために天が与えてくれた試練だと感謝して受け止めていく。そこに運命を好転させる大事な鍵がある。

一流の人たちの一致して説くところである。

「致知」4月号「感謝に勝る能力なし」より

また、大橋氏はこんなことも仰っています。

「昔からよく言うんですけど、人間が何かを成し遂げようと思ったら**『なにくそ！』**という**『負けず嫌い』**が必要です。

しかし、**『負けず嫌い』**には２種類あって、１つは**『ひねくれた負けず嫌い』**、自分以外のところに負けた原因（言い訳）を探すもの。もう１つが本当に強くなれる**『素直な負けず嫌い』**なんです。

だけど**『素直な負けず嫌い』**になるのは決して簡単ではない。優秀な人間は、最初は大抵図に乗ってしまいますから。そしてそのことに自分では気づかない。

しかし、そのことに気づかせてくれる人との出会いに恵まれ、助言を聞き入れることによって、心が**素直**になっていく。そして**本当の強さ**を身につけていく。」と。

『感謝の心』『素直な心』大事にしたいものですね。